
E グループ



※ジュサラ椰子AFモデル圃場（左：ジュサラ椰子 右：パウ・ブラジル）

〒103-0022東京都中央区日本橋室町3-3-3
CMビル 隣日本ビジネスソリューション内

☎ 03-3270-0020

📠 なし

🔍 <http://www.versta.org/>

👤 森田隆夫・小野瀬由一

活動名

ジュサラ椰子 (*Euterpe edulis*) を主作目としたアグロフォレストリーの小農普及によるブラジル大西洋沿岸林保全促進事業

助成活動紹介

私たちVERSTAのビジョンは、アグロフォレストリー（AF）普及活動を支援し、CO2の吸収源である熱帯雨の再生・保全を図ることにより持続可能な地球環境保全に貢献することです。VERSTAの支援地は、既に93%が伐採されたブラジル国大西洋沿岸林であり、その森林地帯に住む小農家に対し、在来種のジュサラ椰子を主樹としたAF普及促進を図ることにより小農家経営の持続化を支援しています。

※ジュサラ椰子とパウ・ブラジル苗木は、**Rio Olympic** 入場式で各国選手団を先導した少年少女が手にしていました。

3年間の成果

ブラジル国サンパウロ州大西洋沿岸林内のセテバラス市内リオプレット集落及びハッポーザ集落における、VERSTA支援活動によるジュサラ椰子AFモデル圃場は合計11農家4haとなっています。VERSTAによる3年間の支援活動によりジュサラ椰子AFモデル圃場での栽培技術交流が図られ、本年度末には活動成果としてジュサラ椰子AF栽培技術マニュアルが完成する予定です。

団体から一言

担当者：小野瀬由一

VERSTAの支援地であるブラジル国大西洋沿岸林は、開発により93%が既に伐採されています。しかし、環境サミットの発祥国であるブラジルは、アマゾン80%、他の熱帯雨林地帯は30%まで再生・保全すると国際宣言



しています。VERSTAは日系ブラジル人・日本企業・日本人有志等の連携により、地球上CO2の主要吸収源である熱帯雨林の再生・保全に取り組んでいます。

連携・提携先

CP代表：山添源二（元SP州森林院総裁）

CPチーム：SP州農務局森林院（FF）・森林財団（IF）・大西洋沿岸林生物圏（RBMA）、サン・カルロス連邦大学、カンピーナス州立大学、国立東京農工大学、セテバラス市、レジストロ市、TV-BANDほか

情報求む！

米国化学雑誌Food Chemistry 121 (2010) 996-1002によると、ジュサラ椰子果実はブラジル果実18種の中で、アンチエイジング成分であるアントシアニンとフラボノイドが最も高いとされており、健康食品会社や大学・研究所の参加を求めています。



South Asian Network for Social and Agricultural Development (SANSAD)



農業研修に集まってきた女性たち（2016年9月12日）

- B-38, Upper Ground Floor, Freedom Fighters Enclave, Ignou Road, New Delhi -110068, India
- +91-11-29534647
- +91-11-29531348
- <http://sansad.org/in/>
- Anil K. Singh

活動名

インド・ウットル・プラデーシュ州における気候に配慮した持続可能な農法の採用による、少数派コミュニティの食料安全保障強化活動

Eグループ

助成活動紹介

平成26年4月から、インドのウットル・プラデーシュ州サハランプル県で、主に食糧供給が非常に不安定で社会的、経済的に取り残されたコミュニティ(主にイスラム教徒、不可触民)を対象に有機農業促進のための活動を行ってきました。農業者への有機農業研修の実施や農業学校での有機農業の技術支援など直接的な支援の他、有機農業のパンフレットを作成配布したり壁画スローガンを作成など普及啓発も行ってきました。そうすることで地域の農業者が作物の生産性を妥協することなく投入コストを減らすことのできる有機農法に移行するために必要な知識、経験を備えられることを目指しました。

3年間の成果

平成26年4月から平成28年9月までで1226名の農民が有機農業研修を受けました。年2回ペースで開催されてきた農業者会議には農業者以外にも地方行政関係者、研究者など毎回約600名が集まって情報交換がなされてきました。有機農業を普及するためのパンフレット配布や壁画スローガンを作成も行き、研修を受けた4割以上の農業者が有機農業へ取り組み始めています。

団体から一言

担当者： Anil K. Singh

有機農業への取り組みを広めるという私の夢につながる事業を支援していただき地球環境基金には感謝しています。この3年で約1400名の農業者が有機農業の技術を学び、すでに有機の米、麦、野菜などを作り始めた人たちも出ています。あと、4-5年で、事業地域であるサハランプル全体に有機農業が広がるとお思います。そのためにも、今後とも地球環境基金には支援していただけたらありがたく思います。



連携・提携先

連携：特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会（東京都新宿区西早稲田2-3-1）

支援：立正佼成会（東京都杉並区和田2-11-1）

情報求む！

インドでの有機農業普及のために頑張っています。ご支援お願いいたします。



NPO法人環境パートナーシップいわて



住民がBDF製造者、利用農家を訪問して見聞きするエコツアー。

- 📍 岩手県盛岡市厨川5丁目8-6
- ☎ 019-681-1904
- 📠 019-681-1906
- 🔍 <http://www.iwate-eco.jp/>
- 👤 担当者：佐々木明宏(副代表理事)

活動名

廃食油の資源化活動を通じて、三陸の復興および豊かで持続可能性のある地域社会をめざすプロジェクト

助成活動紹介

私たちは東日本大震災で石油に依存した生活のぜい弱性を思い知らされました。ガソリンも軽油も切れ車両が動かない中で、いち早く支援物資を届けたのは廃食油から精製したバイオディーゼル燃料（以下BDF）トラックでした。この経験をもとに、大船渡市内を中心に、廃食油排出先聞き取り調査を実施し、自治体を巻き込んだ調整会議を設置し、再開の環境を整えることで、廃食油の資源化に、向けた取り組みを進めています。

3年間の成果

被災された方々とそれを息長く支援してきている地元のNPOの皆さんと、歴史的文化的に関係の深い気仙地区2市1町との連携から、市役所や支所・出張所、合同庁舎での廃食油の回収活動がスタートしました。廃食油による発電器での運転実績から取り組みが着実に広がりました。顔の見える関係での人のつながりが生きる活動に展開しています。

団体から一言

代表理事：野澤 日出夫



我々の取り組んでいる廃食油の資源化活動は、全体のエネルギーからすれば、僅かではありますが、一般家庭と直結する廃食油の回収と精製・利用の仕組みは、地域からのエネルギー費用の流出を減らし地域経済にも貢献すると共に、環境への意識の醸成を促します。

連携・提携先

岩手県、大船渡市、陸前高田市、住田町、岩手大学、地元NPO、地元企業、生協、福祉団体等

情報求む！

生廃食油を丹念にBDF精製の前処理を丹念な手作業で行っている福祉作業所をご存知の方、または、SVOの熱・燃料利用に関する活動団体があればご紹介ください。



特定非営利活動法人 ザ・ピープル



綿花栽培と収穫したコットンを使用したコットンペーパーづくり教室

- いわき市小名浜字蛭川南5-6
タウンモールリスポ内
- 0246-52-2511
- 0246-38-9538
- <http://npo-thepeople.com/>
- 人見順子

活動名

福島県いわき市・広野町を中心とする学校教育現場等での環境保全型農法による綿花栽培を通じた環境教育の実践と産業化に向けた整備事業STEP1,2,3

E
タ
ル
ト
ー
ブ

助成活動紹介

東日本大震災後の福島県浜通りの農業の陥った窮状を、市民の力で解決しようとスタートした「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」。本事業では、身近な衣服の素材を教育現場で自ら栽培することによって、環境教育・産業教育・震災教育を結びつけたプログラムづくりを目指しました。また、震災後の地域課題であるコミュニティ再生の手掛かりとして、コットン栽培や女性の手仕事づくりなどに取り組みました。

3年間の成果

福島県浜通りを中心とする有機農法でのコットン栽培が定着してきました。いわき市内のみならず、福島県内や他県の小学校、遠くは韓国ソウルのフリースクールでもコットン栽培を通じた様々な学びの共有が生まれました。原発事故後の帰還地域にあたる双葉郡広野町では、コットンペーパーづくりに関わった女性たちなどがコットン栽培を主体的に実施するNPO法人広野わいわいプロジェクトを立ち上げ、自主的に外部支援者を迎え入れながらコットン栽培を実施する体制が構築できました。

団体から一言

代表：吉田 恵美子

東日本大震災から5年半以上が経過し、被災地の中の状況も変化してきました。小学生の子供たちの中には、震災の記憶も遠くなっています。



しかし、このプロジェクトでのコットン栽培を通して、子供たちが震災のこと、環境のことを考えるきっかけになることを願って活動を継続しています。

連携・提携先

小名浜地区復興支援ボランティアセンター
いわきおてんとSUN企業組合
NPO法人広野わいわいプロジェクト
いわき市社会福祉協議会
NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会
広野町

情報求む！

有機農法でのコットン(日本在来種の茶色いコットン)栽培を通して、震災・産業・環境を学ぶ機会をもってみませんか？教育帰還との連携を求めています。



NPO法人 森は海の恋人



地盤沈下で新生した塩性湿地観察

📍 宮城県気仙沼市唐桑町西舞根133-1

☎ 0226-31-2751

📠 0226-31-2770

🔍 <http://www.mori-umi.org/>

👤 白幡 美晴

活動名

リアスの浜における湿地・干潟保全活動に基づく地域再生

助成活動紹介

東日本大震災で被災した三陸沿岸部では、地盤沈下の影響で放棄耕作地等に海水が流入し、沿岸の低平地が至る所で干潟・遠征湿地化しました。しかし、災害復旧工事によりその殆どが埋め立てられました。当活動では、新生湿地保全および活用のため災害復旧工事の事業主である市・県・国と粘り強く協議を重ね、また地域住民との土地活用における意見交換を続けて参りました。同時に多くの研究者と共に自然環境調査を続け、環境教育フィールドとしても活用しています。

3年間の成果

主たる活動地域における新生湿地は、地権者の意向もありその半分が農地として埋め立てられました。一方で、約1万平米の湿地を地権者の意向もあって買い取ることができました。課題となっていた湿地に隣接する河川護岸の多自然型での災害復旧工事については、現在も事業主との協議が続いていますが、大凡前向きな設計・工事内容となることが見えてきました。

団体から一言

担当者：畠山 信

三陸沿岸部の環境は東日本大震災の影響で大きく変化しました。そしていま、人の手によってさらに大きく変化しつつあります。是非、現地をご覧くださいいただければと思います。



連携・提携先

京都大学フィールド科学教育研究センター





特定非営利活動法人APLA



環境キャンプで水源保全の重要性について学ぶ子どもたち

- 東京都新宿区大久保2-4-15-3 F
- 03-5273-8160
- 03-5273-8667
- www.apla.jp
- 担当：野川

活動名

東ティモール・エルメラ県における地域住民参加型の植樹活動・水源保全活動実施と持続的モデルケースの構築

Eグループ

助成活動紹介

森林伐採や気候変動による山の保水機能の低下に起因し、水問題が深刻化している活動地の現状に対して、地域住民による主体的な保全活動の仕組みを構築することをめざしてきた。実践を通して、植樹・水源保全活動の意義や方法を学ぶワークショップの実施のほか、こうした活動の重要性について東ティモール国内外に広く伝えるための映像作品を制作した。最終年度には、環境委教育の側面を強化し、当該地域の子どもたちを対象にした環境キャンプも開催した。

3年間の成果

活動対象となる4地域において、住民の意識に変化が見られ、環境保全活動への主体的な関わりがみられるようになった。また、果樹などの多種目栽培への意欲が高まり、住民グループによる実験農場の運営が始まったことで、持続的な農業の確立と並行した形での環境保全活動が動き出している。また、子ども対象の環境キャンプの実施により、地域の学校や行政との連携の足がかりもできた。

団体から一言

担当者：野川未央



入門助成から継続して4年間の助成をいただき、東ティモールのコーヒー産地における環境保全活動を展開してきました。

当該地域住民の中に芽生えた主体的な意識や育ちつつある若手リーダーを後押ししながら、県内の他地域にも活動を広めていくためのステップに移っていきたいと考えています。今後とも応援をお願いいたします。

連携・提携先

- ・ Alter Trade Timor (ATT)
- ・ Permatil
- ・ 東ティモール民主共和国・教育省

情報求む！






環境保全活動に取り組みながら、無農薬で丁寧にコーヒーを栽培している生産者たちとつながってください。毎日消費するコーヒーを東ティモール・エルメラのものにしてみたいな、という団体や自治体の方がいらっしゃったらご紹介ください！



特定非営利活動法人山村塾



祝！特別栽培米の収穫

-  福岡県八女市黒木町笠原9836-1
-  0943-42-4300
-  0943-42-4300
-  <http://sansonjuku.com>
-  問い合わせ担当者 豊国 寛隆

活動名：農山村における災害復興と持続可能な地域づくりを目指した「笠原復興支援センター」

助成活動紹介

- ①棚田の保全を目指し、無農薬や減農薬の特別栽培米づくりに、地域農家とともに取り組み、それを推進するための棚田米サポーターを募集する。
- ②アジアにおける環境保全活動リーダーを育成することを目指し、国内外からボランティアを募り、80日間の長期滞在ボランティアプログラムに取り組む。
- ③復興への取り組みと持続的な農山村を目指し、企業や大学、自治体などとの連携を促進する復興支援センター立ち上げを目指す。

3年間の成果 ※2016年11月10日現在

- ①棚田米サポーター88名、棚田米農家9軒が参加。うち、4軒が減農薬、1軒が無農薬に取り組んでいる。
- ②80日間の合宿ボランティアを計6回実施。参加者計40名(2014年13名、2015年14名、2016年13名)
- ③企業、大学、団体からのボランティア受け入れ総回数25回230名(2014年8回91名、2015年9回139名、2016年8回108名)※2016年11月10日現在

団体から一言

担当者：豊国 寛隆

笠原にはおいしいお米やお茶、きれいな棚田に茶畑の風景があります。また、そこで働く国際ボランティアの存在もこの地域ならではの風景となりつつあります。近くにお越しになられた際は、是非お立ち寄りください。



連携・提携先

NPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)
 NPO法人日本環境保全ボランティアネットワーク(JCVN)
 笠原里山振興会
 九州大学
 KDDI株式会社九州総支社
 社会福祉法人たからばこ
 西南学院大学Think&Act(ボランティアサークル)
 VYA(台湾のワークキャンプセンター)

情報求む！

棚田米を購入してくださる、個人、企業の方々。

メタセコイアの森の仲間たち



けもの塾（箱罠の活用方法）の様子

📍 岐阜県郡上市大和町大間見307

☎ 0575-88-1085

📠 0575-88-1086

🔍 <http://metamori.org/>

👤 興膳健太

活動名

鳥獣被害対策における中間支援組織の育成・提言・ネットワーク化

Eグループ

助成活動紹介

獣害問題において、H26年度に全国1724の市町村アンケートと専門家へのヒアリングを行い、獣害対策白書を発行した。また、新潟、千葉、山梨、岐阜で支援組織を行っている団体でふるさとけものネットワークを設立。H27年度から全国4箇所で獣害対策の担い手を育成する「けもの塾」を実施、けものまぢ医者（地域の担い手）育成し、獣害対策を人を育てていくことで解決を目指す。

3年間の成果

獣害対策白書発行。4000部配布。
一般社団法人ふるさとけものネットワークを設立。加盟団体4団体から8団体に。
けもの塾 計6回 96名（H28.10現在）

団体から一言

担当者：興膳健太

2012年から獣害対策に取り組み始めて、自分の地域のみでの活動が、この3年間で仲間も増え、加速できたことに感謝しています。これからは、全国に支援組織を作り、獣害を地域の資源にかえ、獣害という言葉が死語になります！



連携・提携先

NPO法人新潟ワイルドライフリサーチ（新潟）
合同会社AMAC（千葉）
NPO法人甲斐けもの社中（山梨）
NPO法人穂の国森の探偵事務所（愛知）
NPO法人地域再生ネットワーク（和歌山）

情報求む！

獣害を解決する地域のまぢ医者になりませんか？
ぜひ、けもの塾にご参加ください！



認定NPO法人 大阪自然史センター



「南三陸子どもワークショップ2016」にて。約40名のスタッフの8割が地元メンバー。博物館育ちの学生や、第一回目の参加者だった子ども高校生になり、運営側として活躍してくれました。

📍 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-23

☎ 06-6697-6262

📠 06-6697-6306

🔍 <http://www.omnh.net/npo/>

👤 担当:西澤真樹子・山下和子

活動名

三陸海岸の豊かな自然を子どもたちに伝えるー未来の環境教育を担う人材育成事業ー

Eグループ

助成活動紹介

東北地方太平洋沖地震による大津波等により被災した東北の自然系施設の復興を、人材育成で支えることを目的とした活動。地域の自然をテーマにした学習プログラムを作成し実施する「子どもワークショップ」等のイベント開催を博物館等と連携し行ったほか、地域での生物調査や標本作成、子どもワークショップの手法や標本作成についての技術講習会、学生インターンや団体運営の支援を行った。

3年間の成果

東北3県10カ所、西日本2県3カ所の会場で地域の自然や文化を学ぶ子ども向けイベントを展開し、延べ約7000人が参加した。28年度には実施プログラムの半数以上が現地団体、施設による企画となり、スタッフの地元割合も7割強となった。

また、イベントがきっかけとなり、子どもワークショップが定例化した施設が3カ所ある（宮城県1施設、岩手県2施設）。また、子どもたちへの環境学習に携わる東北の学生団体（ひとつは助成期間中に誕生）2団体が地域で継続した活動を展開している。

団体から一言

担当者：西澤 真樹子（東北支援事業担当）

博物館と連携して活動する私たちにとって、東日本大震災での東北の博物館の被害はひとつではありませんでした。



子どもイベントを開催し続けることで、自然学習と体験の場、そこに集う人々の輪を途切れさせず次世代につながる活動してきた想いが少しずつ形になっていると感じています。今後も息の長い支援を続けていきます。

連携・提携先

【宮城県】南三陸ネイチャーセンター友の会、東北大学総合学術博物館、みちのく博物楽団

【岩手県】岩手大学公認サークル自然史探偵団、奥州市牛の博物館、大船渡市立博物館、三陸ジオパーク推進協議会、住田町教育委員会、山田町教育委員会、陸前高田市立博物館

【福島県】福島県立博物館、いわき市立好間第一小学校、福島市小鳥の森

情報求む！

【自然と人と博物館をつなぐ】をモットーに活動しています。このキーワードに「おっ」と反応された方、お気軽にご連絡ください！

一般社団法人 石巻観光協会



📍 宮城県石巻市鑄銭場8-11

☎ 0225-93-6448

📠 0225-22-2710

🔍 <http://www.fukkouogatsu.com>

👤 阿部勝浩

活動名

石巻市雄勝地区環境復興保全活動

E
ク
ル
ー
プ

助成活動紹介

『東日本大震災によって壊滅的な被害を受けた石巻市雄勝地区。本活動は雄勝地区の住民が主体となって環境の保全を通して復興に取り組み、自然環境と文化・なりわいを次世代に継承することを目的に活動しています。』

3年間の成果

- ・ オリーブ（苗木）試験栽培 13本
- ・ 鹿食害検証試験栽培（ラベンダー 250本、さるなし 60本、
バイオチェリー 5本、プルーン 5本）
- ・ 地域観光資源調査（海ルート・山ルート）
- ・ 円卓会議における住民・行政との意見交換
- ・ 活動ホームページ、フェイスブックの開設・情報発信

団体から一言

担当者：石巻観光協会・阿部勝浩

被災地の緑化促進と彩り豊かな地域をつくるため、継続的な活動と情報発信を行って参ります。これからもよろしくお願いたします。



連携・提携先

- ・ 雄勝ローズファクトリーガーデン
- ・ アライオリーブ（小豆島）
- ・ 泉緑化（仙台市）

情報求む！

- ・ オリーブ、ハーブ類の副産物情報
- ・ 協同生産の取り組み

一般社団法人浦戸夢の愛ランド



牡蠣筏に種牡蠣を挟んだ縄を吊るす作業。

宮城県塩釜市浦戸桂島字鬼ヶ浜17-5

090-4880-6896

022-361-2454

<http://浦戸夢の愛ランド.com>

担当者：三浦 勝治

活動名

ふるさと愛ランド
～牡蠣養殖から学ぶ～

助成活動紹介

牡蠣の海水浄化能力は二枚貝の中でも特に高いことは知られている。人間が自ら自然を汚し、そのつけが全て海へと流されてきた、牡蠣養殖は現代の海の環境を守る、まさに救世主である。牡蠣は山からの栄養、植物プランクトンなどで育つが、大切なのは山と海だけでなく、その中間に位置する一般市民が海を汚さない思いやり、環境にやさしい暮らしをすること。食料を生産している牡蠣養殖に少しでも目を向ける機会とすると共に、この一連の牡蠣養殖の流れを体験することで、地球環境への関心が深まるものと確信する。

3年間の成果

1年目は体験用牡蠣筏を作り牡蠣が海水を浄化することとビーチクリーンに取り組み、2年目は1年間を通して漁業協同組合・牡蠣部会の一員として牡蠣養殖に携わりました。特に11月に行われた牡蠣部会家族総出の『牡蠣まつり』に加わり県内外から来たお客様を接待し、海の環境についてもお話しできました。3年目は牡蠣養殖の後継者育成にも取り組み一人の後継者が育ったことは大きな成果です。

この活動はただ単に地球環境問題の取り組みではなく島の存続が危ぶまれる離島の復興復旧で、島民に生きる希望を与えると共に日本三景「松島」の豊かな自然と離島の生活を守る大きなプロジェクトでもある。

団体から一言

担当者：代表理事 三浦 勝治

知っていますか？

世界で生産されている牡蠣の多くは日本生まれのマガキだってこと。

半世紀前、フランスの牡蠣絶滅のピンチを救うため、宮城県から種牡蠣が輸出されました。

今では、その子孫が9割以上に…

美食の国フランスで愛される牡蠣は浦戸から移住したマガキなんです！



連携・提携先

- ・宮城県漁業協同組合浦戸支所
- ・宮城県漁業協同組合浦戸支所牡蠣部会
- ・NPOまなびのたねネットとワーク
- ・合同会社自然体桂島

情報求む！

今回の活動で景勝地松島の環境を守ってきたのは漁師さんであることがわかりました。今後、継続する為には島の漁業の後継者を育てることです。漁業体験者・島暮らしの体験者・移住希望者と養殖事業を運営する資材・資金のご協力を頂き後継者づくりを図り島の存続に取り組みます。

特定非営利活動法人勿来まちづくり サポートセンター



2016年6月 苗木採取&ウォーク (小浜町愛宕神社)

- 📍 福島県いわき市佐糠町東一丁目19-5
- ☎ 0246-63-5055
- 🏠 0246-63-5056
- 🔍 <http://nakoso.net/>
- 👤 舘 敬

活動名

防災緑地を地域資源として活かす環境
保全事業

E
ク
ル
ー
ブ

助成活動紹介

福島県いわき市岩間町に出来る防災緑地を地域資源として活かし、地域の絆が失われつつある津波被災地における町の再生復興モデルとなるような事業を行う。

3年間の成果

- ・津波で押し流された防潮堤を震災遺構として設置することが出来た。
- ・防災緑地利活用検討委員会並びにコア会議の開催 2014年～計20回の開催
- ・ドングリ苗木採取&ウォーク実施 5回実施 苗木生育1200本
- ・ドングリ里親プロジェクト 150本里親へ配布
- ・芸術性豊かで質の高い防災緑地を目指し国内外への視察研修実施 国内2か所 海外3か所

団体から一言

担当者：舘 敬

2017年 防災緑地完成記念植樹祭実施
2018年 モニュメント建設
タイムカプセル埋設事業実施
を予定しています。



連携・提携先

- ・東京藝術大学
- ・芝浦工業大学中村ゼミ 学生プロジェクト
- ・筑波大学 学生ボランティア Tsukuba for 311
- ・福島県いわき建設事務所 復旧・復興部
- ・岩間町行政区
- ・いわき市市民協働部
- ・勿来・田人方部連合PTA

情報求む！

東日本大震災の沿岸部被災地で復興に向けて参考になるような事例があれば教えてください。